

新年のご挨拶

熊本県酪農業協同組合連合会

代表理事会長 吉田 孝 壽



謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

年頭にあたりまして、会員組合、酪農生産者、関係機関の皆様より旧年中に賜りましたご支援、ご協力とご指導に対し、心より厚くお礼を申し上げます。

昨年は、我が国の災害史上最も過酷ともいふべき東日本大震災と地震により発生した東京電力福島第一原子力発電所事故がありました。この新年を寂しさと厳しさの中で迎えられた方々が何十万人といらっしゃることを思いますと、従来のおめでとの言葉が言い難い複雑な年明けであります。

未だに未曾有の被害を受けた東北・関東地域の当時を思いますと胸が痛くなります。震災時には本会は牛乳や乳飲料をいち早く被災地に送っています。更に関東地区の牛乳不足には、本会製品を毎日供給し、国民の生活支援に努めました。このことは後に全国チェーンの量販店より感謝の言葉を頂いています。これは県下酪農家の皆さんに対する感謝です。この場にてご報告申し上げます。

そして、何よりも被災者の皆様の一日も早い復興と幸せの訪れを祈りつつ、本県酪農家の皆様から多くの支援をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

さて、我々にとりましては多くの難題・課題が年を越しています。

まずは環太平洋経済連携協定（TPP）が厳しい局面を迎えています。このTPPは二年前に当時の菅首相が唐突に意見表明されたものであり、ご存じの通り日本農業・酪農業に壊滅的な打撃を与え兼ねないものです。

本会も関係機関・団体と共にTPP協議参加の断固阻止を訴えて参りました。しかし、現状では参加に向けた協議が開始されており非常に厳しい状況に立たされています。今後の推移を注視しながらも協定参加断固阻止について多くの国民の理解を得ながら酪農の存続できる環境の維持に努める所存です。

付け加えますとグローバル化は確実に進展しています。WTOやFTA等も協議が進んでいます。牛乳・乳製品の国境措置

の堅持と共に足腰の強い酪農経営を確立できるように努めて参ります。皆様のご協力をお願い致します。

また、酪農を取り巻く課題の一つには、需給問題も顕著となる年でありました。全国の生乳生産量は北海道が下期に入り回復基調で生産されていますが、

特に都府県は東日本大震災と原発事故の影響もあり厳しい状況が続いています。九州におきましても一昨年の宮崎県で発生した口蹄疫の影響や猛暑による受胎遅れが影響し二三年一〇月までの生乳生産は前年対比九七・八%でありました。その中で熊本県は累計で九八・八%です。

しかし一一月単月では一〇一・八%と回復基調で推移しております。九州の生産量の三分の一強を生産する熊本県は、九州の酪農を牽引し西日本における生産基地の役割を果たさなければなりません。昨年は県の協力を頂き搾乳素牛の導入事業も実施しました。また、生産コストの低減対策としては八代TMRセンターを建設し酪農経営の安定を目指します。東日本大震災の

影響を受け稼働時期の遅延がありました。今後は製品の供給を開始いたします。皆様のご利用とご支援をお願いします。

乳業につきましては、上半期のロングライフ製品の販売好調もあり農系乳業各社が厳しい経営が続くなかでは、前年実績数量を超えて推移しております。新製品の開発もデコボンや米粉などの県産品を使用した製品に加え、クッキングミルクという料理用の牛乳を開発発売いたしました。この商品は飲用以外の牛乳消費を求めた新規分野への提案です。どうかお試し頂きまして料理方法の提案などもいただければ幸いです。

全国的な牛乳消費の減少が続いています。飲用の拡大を図るため取り組んでいます輸出につきましましては、いまだ中国の規制が続いており、香港など供給が限られています。中国当局の輸入許可を要請しながら東アジアを将来の輸出圏ととらえ可能性を追求して参ります。

一二月に実施した生乳生産計画組合間調整においては、一七一一トンを九州へ返還しており、

本県の生乳生産数量は二三四、七九六トン（前年比一〇〇・三％）となりました。不透明なTPPの影響や高止まりした飼料価格や後継者の問題などが影響しているようです。まずは、三月末の計画数量達成をお願いし、潤沢な生産ができる環境の改善に努めて参ります。どうか宜しくお願いいたします。

阿蘇ミルク牧場も一二年目を迎えます。集客はどうしても天候に左右されますが、酪農業への理解を確実に生活者へ情報発信しております。皆様の尚一層のご利用をお願い致します。

今年も生産者を守るため、組織を守るため、そして熊本県酪農を守るために役員一丸となって邁進致します。ご支援ご協力を宜しくお願い致します。

最後となりましたが、皆様のご健勝とご発展を心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶と致します。



らくのうマザーズ

謹んで新春のご祝詞を申し上げます

本年も酪農発展のため全力を挙げて努力いたす所存でございますので、尚一層のご指導、ご鞭撻の程、お願い致します。



らくのうマザーズ 役員一同

新年のご挨拶

熊本県知事 蒲島郁夫



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日頃より県政の推進に御理解・御協力を賜り、さらに酪農・乳業の振興を通して地域や県勢の発展に御尽力いただきありがとうございます。

おかげをもちまして、本県は、西日本一、そして全国でも有数の酪農県となっております。これもひとえに貴連合会をはじめとする関係各位、酪農家の皆様との御努力の賜物であると深く敬意を表する次第です。

さて、昨年を振り返りますと、乳価は据え置かれたものの、飼料価格の高止まりや、景気低迷による牛乳・乳製品の消費の落ち込みなど厳しい状況が引き続きました。

特に、昨年前半は、全国的には東日本大震災や、それに伴う原子力発電所事故による生乳や牛乳・乳製品の生産・出荷停止のほか、一昨年の口蹄疫や記録的猛暑の影響による生乳生産量の減少により、厳しい局面に直面しました。

本県においては、関係各位の最大限の取組みの結果、生乳生産への影響が最小限にとどめられ、主産県としての供給責任を果たすことができましたことは、本県酪農・乳業界の底力と高いポテンシャルを示したものであり、大変心強く感じております。

このような中で、環太平洋パートナーシップ（TPP）協定への首相の参加表明は、国民的議論が十分になされなまま行われました。とりわけ大きな影響を受ける農業については、食料供給はもとより、地域経済・社会を支える役割が安定的に維持されるための明確な道筋を示していただく必要があります。

今後とも、全国知事会をはじめ、他県とも連携を図りながら、国に対して強く働きかけを行うて参ります。

また、一昨年四月に宮崎県で発生し本県にも大きな影響を与えた口蹄疫は、中国、台湾など近隣国では依然として発生が続いております。口蹄疫の発生は、畜産経営だけでなく地域経済に深刻な影響を及ぼすことから、本県では一頭たりとも発生させないとの強い覚悟で、大規模な防疫演習を実施するなど防疫対策の徹底を、日々怠らないよう努めているところでです。

関係の皆様におかれましても、昨年改正された国の飼養衛生管理基準等に基づき、本年も引き続き消毒の徹底などの十分な対策を講じていただくようお願いいたします。

酪農・乳業が中長期的に発展していくためには、安全・安心で高品質・高付加価値な製品づくりや牛乳・乳製品の消費拡大に関する取組みとともに、需要

に応じた生産体制の確立、後継牛の安定的な確保や自給飼料の生産拡大などの取組みを進め、足腰の強い酪農経営を実現することが必要です。

このような課題を踏まえ、貴連合会におかれましては、付加価値の高い新商品の開発や、L牛乳の輸出による販路拡大をはじめ、県内酪農・乳業の発展のため積極的な取組みを講じられてきたところでです。

県では、昨年、口蹄疫等に伴う搾乳牛不足に対応するため、緊急に補正予算で「乳用後継牛導入緊急対策事業」を講じ、貴連合会と連携して後継搾乳牛を円滑に導入し搾乳頭数を確保することとしました。また、飼料用米など国産飼料を利用するTMRセンター整備への支援や、折りたたみ可能なソフトタンク輸送の導入による生乳輸送の効率化に対する支援なども講じたところでです。

本年も、引き続き耕畜連携による飼料用米などの自給飼料増産の取組みや、乳用牛の改良や牛群検定など生産性向上、牛乳の消費拡大など、酪農の振興に皆様方とともに取り組んで参りたいと考えております。

最後に、貴連合会および関係各位、酪農家の皆様にとりまして、本年がすばらしい一年となりますことを祈念し、新年のあいさつといたします。

新年のご挨拶

全国酪農業協同組合連合会
代表理事会長 砂 金 甚太郎



新年明けましておめでとうございませう。

熊本県酪農業協同組合連合会の酪農家・役職員の皆様におかれましては、良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃より、弊会事業に特段のご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成二四年の年頭に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。昨年は、新年早々に北日本で豪雪被害があり、春には東日本に未曾有の被害をもたらした東日本大震災が発生し、夏から秋には西日本で台風被害が何度も起きる等、振り返れば自然災害が多かった年でした。

東日本大震災では原子力発電所事故が発生し、福島県多くの酪農生産者が今も不自由な避難生活を強いられています。さらに、放射性物質は、北関東、東北の広範な地域の作物と土壌を汚染し、更新牛の滞留、汚染粗飼料の廃棄、土壌の除染等多くの課題を残したまま、越年してしまいました。

弊会としても会員と協力しつつ、被害を受けられました酪農生産者の皆様の経営再開、また経営を強化できるよう、行政に対し支援を要請するとともに、搾乳牛導入や経営指導等を推進し、地域の酪農生産基盤の安定を図っていきたく考えます。何よりも、今年こそは災害の無い平穏な一年であってほしい

ものです。

さて、野田政権は国内議論も不十分なままTPP交渉参加のため他国と協議を開始すること去年十一月に表明しました。国内対策の無いままTPPに参加すれば、酪農をはじめとする我が国の農業は大きな打撃を被ります。

昨年、世界人口は七〇億人を超え、これからはいよいよ食糧危機の時代に入るといわれています。また、数年前にロシア等が穀物の輸出を停止したように、食糧輸出国といえども異常気象や経済危機、また、周辺地域で紛争が起こればただちに輸出を停止することも考えられます。これ以上、日本国民の食糧を他国に依存するようなことは断じて行うべきではありません。

また、日本の酪農は、安全・安心で高品質な牛乳乳製品を毎日供給しているだけではなく、牧草地や畑地による国土保全、こどもたちへ「いのち」の大切さを伝える教育等の付加価値を持つており、国民生活に多面的に貢献しています。

弊会としましては、日本酪農政治連盟や他団体と協調し、拙速なTPP参加には断固反対していく所存です。また、酪農生産者の皆様が安心して酪農経営を継続できるよう、酪農生産基盤を安定させ、若い後継者が育つような酪農対策を政府へ要請してまいります。

第八次中期事業計画の三カ年では、全酪連グループとしての累積損失を解消し、会員皆様への出資配当・事業分量配当を復活させることができました。

また、技術・経営情報提供の充実、生産性向上とコスト低減への取組み支援等について、DMSシステム（酪農家経営管理支援システム）態勢の強化をはじめ、自給飼料生産技術から乳質改善技術に至るまで、酪農生産者・会員への総合的な支援を進めてまいりました。

今年四月からは、第九次中期事業計画が始まります。現在策定を進めておりますが、酪農生産環境の整備や生産性の向上、生産物の有利販売の強化といった事業にも積極的に取り組んでいく内容としております。

弊会としましては、今後とも全国の酪農生産者・会員の皆様のご協力と行政・関係団体のご指導ご支援を賜りながら、日本の酪農の将来への持続的発展に向けて、中長期的に本会の果たすべき機能等の強化を図り、酪農専門農協の全国連として日本の酪農の振興と発展に寄与していきたいと考えております。

最後に、熊本県酪農業協同組合連合会のみならずの発展と、酪農家の皆様そして役職員の皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

九州生乳販売農業協同組合連合会
代表理事会長 尾形文清



新年おめでとうございます。酪農家並びに会員の役職員の皆様におかれましては、健やかに平成二四年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、本会の事業運営に格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。さて、国内外の情勢に目を転じますと緊迫した事態となっております。

国外では、欧州経済の混乱、米国経済の低迷や国際的な金融不安により急激なドル安、円高が進み、これが国内の諸産業に影響を及ぼすリスクが高まり、企業業績の悪化や金融機関への波及が懸念されています。国内では、昨年三月に三陸沖を震源とする巨大地震が発生し、多くの方々が被災され、犠牲者も多数でました。これに福島も東京電力原子力発電所の事故が重なり、「東日本大震災」と呼ばれ、復興に向け懸命な取り組みがなされています。

この震災で酪農関連も一時大混乱に陥り、乳用牛の管理、集送乳や製造等に影響がでました。一方では、酪農家への支援活動も全国的に行なわれ、九州においても生産者の皆様を始め関係者一体となつてご協力をいただきました。改めて感謝申し上げます。

こうした中、昨年九月に新内閣が発足しましたが、国民が安心して暮らせる政策がみえてき

ません。

特に、国民的課題であったTPP問題は、農業団体を始めとして多くの生活者や諸団体が反対しているにも関わらず、交渉参加に向けて関係国と協議に入ることを表明されました。国は、食料自給率を平成三二年度に供給熱量ベースで五〇%まで引き上げる目標を掲げています。

地球温暖化等により穀物等の需給ひっ迫が懸念される中、世界の人口は昨年七〇億人を突破しました。長期的には食料は不足するとの予測から、戦略物資のひとつになりつつあります。自給率の低い日本にとって今後、安定的に確保されるのか心配です。TPPの渦中で、どう農業の持続的発展をめざすつもりなのでしょう。農業者が安心して営農して生活できる具体的な方策を早急に示して欲しいものです。酪農については、国は生乳生産の回復に時間がかかることを背景に、バターの一定水準の確保を図るため、昨年八月に業務用バター二千トンの追加輸入を決定、今後も需給動向をみながら対応する意向です。

平成二三年度は増産型生乳計画生産となりましたが、全国の指定団体の上半期実績は前年を割り込んでいます。全国的に酪農家戸数が減少していること、乳牛頭数が増えていないことを考えますと今後の生乳生産が

懸念されます。九州は昨年九月から前年を上回って推移しており、下期以降の生産が軌道に乗ることを願っています。

平成二四年度の生乳計画生産については、今後の生乳需給動向予測等を踏まえて協議を進めていきます。

また、需要期の生乳生産は、九州産生乳の需要を活気づけることとなります。飼養管理等のご苦労がありますが、ご理解とご協力をお願いします。

飲用牛乳の消費が減少傾向で推移しています。現在、消費拡大運動の一環として酪農理解醸成活動に取り組んでいます。引き続き皆様と一体となつて活動に取り組み所存であります。食の安全・安心の確保について、原発事故以後、消費者の反応は敏感になっており、量販店等も独自に取り扱う食品を検査するところもでてきています。平成一八年度からポジティブリスト制度が導入され記帳を行っています。乳業者、消費者からの信頼を得るには欠かすことのできないものであり、厳格な対応も求められています。記帳の励行をお願いします。

新年を迎え、本会役員一丸となり、皆様方の負託に応えられるよう努力する決意を新たにしております。

皆様方の一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶

熊本県酪農部長連絡協議会
会長 野 満 洋 祐



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日頃より、熊本県酪農部長会
の事業には特段のご支援ご協力を
賜り厚く御礼申し上げます。
会員の皆様並びに酪農生産者
の皆様に対しましてご挨拶を申
上げます。

さて、昨年は三月十一日を境
に我が国は大きな変革を余儀な
くされました。この日に発生し
た東日本大震災により東北地方
を中心に関東地方に及ぶ広い範
囲で壊滅的な被害が発生しまし
た。被災された方々に対しまし
ては、謹んでお見舞い申し上げ
ます。また、地震により発生し
た東京電力福島原発事故では原
発の安全神話を根底から覆し、
我が国のエネルギー政策のみな
らず国民の生活基盤に大きな課
題を投げかけています。被害を
受けられた皆様、特に酪農同士の
皆様におかれましては一日も
早い復興をお祈り申し上げます。
昨年は、この悲しい事故の厳
しさに加えて、なんと言っても
環太平洋経済連携協定(TPP)
への参加問題がありました。参
加、反対で国を二分した論争が
ありましたが、関税自由化を原
則に掲げるTPPへの参加は、

日本の農業・酪農業に壊滅的な
影響を及ぼすのは明らかです。

本県でも県酪連や酪政連、更に
は熊本県JAグループと共に反
対運動を展開し、全国で一、一
六七万人もの署名を集めて政府
や国民に参加阻止を訴えて参
りました。部長会も会員各位の協
力をお願いし運動を支援してま
いりましたが、結果は野田首相
の参加に向けた協議を開始する
という厳しい表明でありました。

この問題は我が国が協議へ参
加できるのか、協定締結に向け
て意見できるのか、国民にどん
な影響を与えるかなど情報開示
が進んでいません。その中で今
後どのような進展となるのかを
注視すると共に、参加阻止を第
一義とし、日本酪農業を守らね
ばなりません。

日本の食料を安定供給し健康
を守り自然を保全する酪農業が
継続できる環境の維持を切望し
ております。

また、酪農部長会は、例年、
酪農経営環境の改善を図るべく
活動展開していますが、昨年は
ラクトコーダーを活用した搾乳
手技改善指導を研修すると共に
乳質に優れた大山乳業農協の視
察研修などを実施し酪農経営改

善に向けた活動に取り組んで参
りました。特にラクトコーダー
につきましては、鳥取県大山乳
業農協にて効果が認められてお
り、本県においても学習の機会
を得ることができました。搾乳
状況の把握とミルクカー洗浄等を
数値化しグラフにより分析する
ことで現状の分析と具体的対策
に有益であると感じました。今
後は情報の共有化を図り、県下
各地の酪農情勢を検証しながら
酪農業の発展に少しでも貢献で
きればと願っております。

酪農業を取り巻く環境は、前
述のTPP問題に加えて、東日
本大震災によってより一層顕著
となった都府県酪農の問題、価
格政策の行方や確定を見ない酪
農版戸別所得補償制度の取り扱
いなど酪農家の将来を不透明に
している問題が数多く控えてい
ます。

我々酪農部長会は熊本酪農業
の安定と発展を期して、ますま
す活動の充実をはかって参りま
す。皆様の十分なご理解とご協
力を宜しくお願い申し上げます。
最後となりましたが、本年が
皆様にとりまして良き一年であ
りますことを祈念致しまして新
年のご挨拶と致します。

新年のご挨拶

熊本県酪農政治連盟

委員長 吉田孝壽



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年中は、本連盟の活動に對しましてご協力とご支援を賜り誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

さて、我が国は未曾有の被害があった東日本大震災と地震によって発生した津波が東京電力福島原子力発電所の事故を引き起こし、放射性物質の汚染という、今までに経験したことのない非常に厳しい状況を迎えています。

酪農を取り巻く情勢は、政治情勢としては、環太平洋経済連携協定(TPP)への参加問題が日本酪農の将来に関わる重要懸案となっております。

このTPPにつきましては、会員の皆様には、我が国が交渉に参加することが無いように様々な運動展開に對してご協力を賜りました。

特に一昨年の活動当初は、国民の関心が薄く事態の重要性を理解されていない現状に、危機感を抱いておりました。我々はこの問題が非常に大きな問題であることからJAグループや県、そして全国連と協調し交渉参加の断固阻止を訴えて参りました。

皆様には署名活動や街頭での理解醸成運動、更には総決起大会の開催など、地域と全国規模との運動に對し全面的なご協力を頂きました。

しかし、野田首相の表明は参加に向けた協議の開始という曖昧な表現であり、実質では我が国は参加に向かつての舵取りとなつてしまいました。

情勢は非常に厳しい状況ですが、参加の断固阻止は我々の命題であります。今後も活動を継続し強調の和を異業種や消費者団体などへ広げて行かねばなりません。会員の皆様におかれましてはご協力をお願い致します。

自由化が進展する現在ですが、国際問題に関しては、お隣の韓国でアメリカとのFTA(米韓自由貿易協定)の締結に對して大規模な抗議活動となつております。協定の締結により韓国の農業は果樹や畜産を中心に大幅な生産の減少が懸念されております。我が国もWTOやEPAの協議が進行中であります。我々は首尾一貫した要請をして参りましたが、牛乳・乳製品については国境措置の堅持を固らねばなりません。

そして、将来に向けては国際化のなかでも足腰の強い酪農業となすべく政策の提案を行い活動の充実を図つて参ります。

ここで昨年の県政を顧みますと、四月には熊本県議会議員選挙が実施されました。本連盟は県議会議員酪政会の会員各位と政策協定書を締結し選挙戦に望みましたが、全公認・推薦候補者の当選を果たすことができま

した。これは、ひとえに会員の皆様の力を結集した成果です。皆様のご協力に感謝申し上げます。当選された議員とは、強固な関係づくりに努めて参ります。地域での連携の強化も宜しくお願い致します。

また、今年は熊本県知事選挙が挙行されます。酪政連では酪農家の総意により支援者を決定し酪農へ理解ある熊本のリーダーを育てなければなりません。時期が参りますと縷々ご案内申し上げますのでご協力をお願い致します。

平成二四年も国の酪農関連予算確保や酪農版戸別所得補償制度の確立など、国政の限られた予算の中で、特に都府県酪農対策の強化を要請し具現化しなければならぬと感じております。更に熊本市は政令指定都市となり県政と市政の構図に変化が生まれます。酪農行政も滞ることが無きように関係強化を図つて参ります。

今年も農政活動、予算確保活動、さらに牛乳・乳製品の消費拡大対策、理解醸成活動の展開など、熊本県酪連や九州酪政連協議会、県、国等、関係各位のご協力を頂きながら活動展開を図りますので、皆様の甚大なるご協力を頂きますよう重ねてお願い致します。

最後となりましたが、皆様のご繁栄とご多幸を祈念申し上げます。

新年のご挨拶

熊本県酪農青壮年部協議会

委員長 内ヶ島 賢 勇



新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、良き初春をお迎えの事とお慶び申し上げます。

平素より、当協議会の事業運営につきまして多大なご理解とご協力とを頂いておりますことを厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は一昨年の猛暑や口蹄疫の発生により、生乳生産量が大幅に減少する中、三月に起きた東日本大震災により多くの尊い人命が失われました。

また、津波による福島第一原子力発電所の事故では放射性物質が飛散し、長年住み慣れた土地から立ち退きをさせられるなど悲しい事が起こっています。そして、放射能は農作物まで汚染して我が国の安全神話をも崩そうとしています。更に、以前から前のめり感があったT P P参加においては、一一月に総理が参加表明とも取れる発言を行い将来に大きな不安を残す事となりました。

こうした中、酪農青壮年部の活動と致しましては三年ぶりに皆様のご協力により県酪農発表大会を開催することが出来、大変感謝致しております。また大会に来られた方からも「久しぶりに若い人の発表が聞けて勉強

になった。」「刺激を受けた。」など喜びの言葉を頂くことが出来、私も心から感動することが出来ました。

しかし、震災の影響により様々な行事が自粛ムードの中、各ブロックの発表大会も中止となり、九州大会においても中止が決定しました。こんな素晴らしい発表を他の皆様にお伝えできない事が残念でしたかありませんでした。

しかし、全国の酪友から震災や口蹄疫で被災された酪農家の方に体験発表して頂き、生の声をお聞きし、実情を学びたい、少しでも被災された酪農家の方に勇気を与えたいと要望があり、全国酪農発表大会の開催予定地であった北海道で七月に「酪友フォーラム」が開催されました。

涙なしでは見られない様な悲惨で生々しい映像を交えながらの発表でしたが、どの酪農家の方においてもしつかり前向きに頑張っておられる姿を見て、励まされなければいけない立場のほが逆に励まされた様な気がしました。

なお、本年の発表大会は震災を考慮して二二年度のデータで行われます。熊本からも昨年の発表者の方に参加して頂きたい

と思っておりますので宜しくお願ひ致します。

その他にも、例年同様スポーツ大会や酪農女性部・酪政連と連携した消費拡大運動を行いました。夏季酪農大学では「口蹄疫に遭遇して」と題して宮崎の柏木勲先生に講演して頂き、改めて防疫の大切さを認識させられました。

また、秋には保育園での酪農ふれあい体験交流、乳牛改良同志会と合同の農水省との勉強会を行う等、精力的に活動をして参りました。

今後、我が国の経済情勢やT P P参加問題等見通しがハッキリしない状況であります。今こそ「安全」「安心」「うまい」を前面に出し生産して行く事こそが外国の農産物に対抗する一つの手段ではないかと思えます。

これからも、私達、熊本県酪農青壮年部協議会では、組織活動を活発に行いながら昨年の震災で学んだ会員同士の「絆」を大切に、この移り変わりの激しい時代を乗り切って行きたいと思えます。

今年も皆様のご協力を賜りますと共に、本年が会員皆様にとりまして実り多き年になります様ご祈念申し上げます。私の新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

熊本県酪農女性部協議会
会長 富田 秀子



新年、明けましておめでとうございます。

平成二三年度は、三月一日に発生しました東日本大震災によりまして、悲惨な状況が続きました。被災された皆様にかからのお見舞いと一日も早い復興をお祈りしたいと思います。現在、原発事故による放射能の問題や風評被害等様々な問題が山積しています。

さらにT P P問題も農業だけではなく、医療や雇用の問題に関係する為、日本の食や環境を守るためにも断固として反対してきましたが、一月にT P P交渉参加の表明をしたことにより不安な状況が続いています。

私達、酪農家はどんな状況でも、地域とのコミュニケーションや豊かな自然を未来に引き継げる様に環境への配慮をしながら、安全で安心な牛乳を安定的に供給していく事が、日本の酪農を守る事ではないかと思えます。

平成二三年度より、M I L K J A P A N「牛乳が日本を元気にする」というスローガンのもとに、それぞれの地域で草の根型の消費拡大活動を頑張ってきました。

徳島大学の武田英二教授によりますと、牛乳はストレスの耐性に関する脳内神経伝達物質の生成に関するアミノ酸「トリプトファン」を豊富に含む代表的な食品であります。また、スト

レスの多い日常生活は、人の神経や心に、影響を与え免疫力が低下するので、栄養バランスのとれた食生活が重要となり、それには、牛乳が不可欠であると武田教授はおっしゃっています。特に、子供の場合、精神発達及び人格形成や食育の観点からも牛乳の存在が必要です。

このような、牛乳の価値観やすばらしさをもっとアピールしていかなければと思います。

酪農女性部活動をふり返ってみますと、一月に第六回牛乳を使った料理コンクールをらくのうマザーズ阿蘇ミルク牧場で行いました。牛乳の消費拡大につながるようと県立農業大学校も含め、ご飯部門とデザート部門に合計二八点が出品されました。いずれもアイデアを凝らした料理やお菓子ばかりで、審査員を悩ませるべきでした。今年も一月二八日にらくのうマザーズ阿蘇ミルク牧場にて開催予定です。

二月二五日には、一般生活者を招待し、「第三六回酪農女性の集い」を開催し、約八〇〇名の参加者が集まり、エステティシヤンの今野華都子さんの講演と酪農女性の趣向を凝らしたアートラクションで盛大に開催することができました。本年度は、二月二二日に崇城大学市民ホールにて、慈恵病院看護部長の田尻由貴子さんを講師に迎え開催

予定です。

六月には、「ちちの日に牛乳を贈ろう！キャンペーン」を実施しました。このキャンペーンは平成一八年から全国で展開しています。六月四日には青壮年部と合同でゆめタウン光の森にて牛乳の無料試飲会を行いました。九日には県庁と九州農政局にて牛乳の贈呈式を行いました。今後も牛乳を「ちちの日」の定番ギフトとして定着させることを目指し、今後も牛乳の消費拡大キャンペーンとして続けていきたいと思います。

八月には、夏季酪農大学で、みやざき農業共済組合尾鈴診療所の柏木獣医師より「口蹄疫に遭遇して」と題して講演頂き、口蹄疫の予防等、有意義な勉強会を開催出来ました。柏木先生には感謝申し上げます。

一月には第二三回熊本県酪農女性ミニバレーボール大会を行い、さわやかな汗を流し、酪農女性のパワーを感じる大会となりました。

厳しい酪農情勢が続いていますが、明るい未来を信じて。「ふたたび、かえらぬ時なれば、このひとときに、命を燃やさん」

一日一日を大切に、頑張っていきたいと思えます。

最後に、皆様の御多幸を祈念して、新年の挨拶に代えさせていただきます。

新年のご挨拶

～飛翼の年として～

熊本県乳牛改良同志会

会長 松島 喜一



新年明けましておめでとうございませう。

皆様におかれましては良き初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より同志会活動にご理解とご協力を賜り心より厚くお礼申し上げます。

年頭に当たり一言ご挨拶申し上げます。

さて、昨年は、三月、東日本に未曾有の被害をもたらした東日本大震災により、多くの仲間たちが被害に遭われ、開催が予定されていた第一三回全日本ホルスタイン共進会、オール九州B&Wショウを中止する結果となりました。

このような中に、同志会としては、被害を受けられた仲間の復興を支援したい考えから、一〇一頭の出品牛により「第三回熊本県B&Wショウ」を開催し、その中で、チャリティーオークション及び募金活動を行い、多数の参加者にご協力を頂き、その結果、救援物資を被災地に向けて送ることが出来たことが、大成功だったと感じております。また、若い後継者に酪農の魅

力を感じてもらいたいとリードマンスクールも取り入れました。

今年は、三月に第一〇回オール九州B&Wショウ記念大会及び第三五回熊本県B&Wショウを開催します。九州各県はもとより西日本各地まで参集し、同志一同が交流と親睦を図って頂きたいと思っております。

また、一月には我々同志会の最大イベントである第八回全日本B&Wショウが開催されます。一頭でも多く出品して頂く為に、若い後継者の育成と乳牛の改良に会員全員で努めていきたいと考えます。

また、全国からの同志が集う場であることから、乳牛・酪農に関して、各県の酪農家と交流、親睦を図り、改良の成果を見極め、これからの酪農を担う若い後継者は乳牛改良の方向性と飼養管理技術を今以上に努めて欲しいと願っております。

今後は、国内対策の具体的な議論がされないままに交渉参加の協議開始を一月に表明されたTPP問題は、酪農をはじめとする我が国の農業に大きな打撃を受けることにもなります。

このような情勢を踏まえ、如何なる時も、対応出来るべき日頃の酪農経営において、安全・安心な生乳生産及び生産コスト低減に努め、品質向上、国際化、産地間競争に対応すべき牛群検定・後代検定・登録事業及び体型審査を一体的に考え、能力情報、血統情報及び受精情報を活用した改良推進を図り、会員全員で築いていこうと考えております。

最後になりましたが、本年も昨年同様、関係各機関のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

～千円の値打ち～

熊本県專業酪農經營者協議会
会長 大王秋 徳



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年中は大変お世話になりました。昨年一年を振り返ってみますと、三月に発生しました東日本大震災により、東北四県が未曾有の被害を受け、さらには福島原発事故により故郷を追われ、未だ家に帰ることのできない人たちがいることに胸が痛むと共に、一日も早い復興を願うものです。

そのような中、熊本県專業酪農經營者協議会では役員改選が行われ、新体制でのスタートを切りました。

第一番目の事業としましては、六月から毎月一回(一二月は二回)、熊本県内二カ所の会場において簿記講習会を開催致しました。原田八重税理士に加え、ソリマチ株式会社からも会計ソフトの指導を仰ぎ、中身の濃い講習会となりました。

第二番目の事業としましては、日頃の酪農女性の労をねぎらうべく、九月にホテルキャッスルにおいて女性の広場を開催致しました。講師には、テレビタミンでお馴染み、くまもと県民テレビアナウンサーの村上美香さんを迎え、さすがプロと思わせる話術で素敵な笑顔の作り方を伝授して頂き、参加された酪農女性にとっては有意義な時間を過ごせたのではないでしょう

か。さらに、村上さんが取り組んでおられるライフワークの中から、「いのちをいたたく」内田美智子著の紹介があり、生命の尊さ、酪農家という仕事の誇りを学ぶことができたのではないかと思います。

第三番目の事業としましては、一二月に県下の專業会員の親睦と交流を図るべく、熊本交通センターホテルに場所を変更して全体研修会を開催致しました。

講師には、野田首相がTPP交渉参加を表明されたことで、今後の酪農情勢が深刻な影響を受けることは必至となる中、大きく変化するであろう日本の農業を考えたとき、TPP推進の立場である有識者の見解も聞く必要があるとの考えから、マスコミ等でも活躍されているキャノングローバル戦略研究所研究主幹の山下一仁先生を招き、実施致しました。山下先生は、『TPPと農業再生』自由貿易が日本農業を救う』と題した講演で、「今日の日本の農業が抱える大きな問題から、TPP参加は日本農業改革の絶好のチャンスである。」最後に、「日本農業を守るためには、直接支払いによる政策に転換すべきである。」と締め括られました。五年後

一〇年後の酪農経営を見据え、今一度皆で考え議論し、冷静な判断が必要であると思うところ

です。

最後になりましたが、熊本県專業酪農經營者協議会の役割は大きいと思います。月々千円の会費で自主独立運営です。先輩諸氏が培ってこられた組織であり、どこにも束縛されず、自由な発想、発言で諸問題に取り組み、提言もされてきました。一人一人では何も出来ませんが、会員が知恵を出し合い、話し合い、活動を行ってきております。なにより、今話題となっている酪農や経済界の有識者を招き、勉強会や交流が出来るのも熊本県專業酪農經營者協議会の会員であればこそです。今日の酪農を考えたとき、一人では何も出来ません。「一人は万人のために、万人は一人のために」ではありませんが、常に仲間がいて、共に学び、時には議論も、前へ進んでいかなければなりません。熊本県專業酪農經營者協議会は会員あつての組織です。

新しくスタートした体制で、これからも月々千円の値打ちが安くなるような活動ができるよう取り組んでいかなければならないと思っておりますので、これまでに引き続き、ご協力の程宜しくお願い致します。

また、併せて、新規会員の参加も宜しくお願い致します。
平成二四年 元日

新年のご挨拶

熊本県酪農ヘルパー利用組合
組合長 津田 桂 伸



新年明けましておめでとうございます。

酪農家の皆様におかれましては、よき新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素より本組合の事業に対しましては、ご支援・ご協力を頂き心より感謝申し上げます。

さて、昨年までの酪農・乳業情勢を振り返ってみますと、宮崎での口蹄疫や猛暑による受胎遅れ、東日本大震災や原子力発電所事故の影響により生乳生産量が減少しました。また、牛乳・乳製品の消費は、少子高齢化による人口減少や食生活の変化による一人当たり消費量の減少といった構造的な要因に加え、デフレも影響して継続的に減少しています。更に、このデフレは消費者の低価格志向を一層強め、小売り価格の安売り激化にも繋がっています。

このような中、政府はTPP交渉参加に向けて関係国との協議に入ると述べ、参加国との事前協議から始まる交渉プロセスに参加する方針を表明しましたが、依然としてどういった農業政策を行うのか見えてこず、酪

農情勢は予断を許さない状況となっておりです。

一方、県内の酪農ヘルパー事業につきましては、組合員の皆様方のご理解、ご支援により、地域に密着した事業として質の高いヘルパーを育成・指導し、定期的な休日の確保、傷病発生時に速やかに対応することにより、魅力ある酪農経営の一助として努力して参りましたが、酪農ヘルパーの要請が集中した時期に、出役をお断りせざるを得ないこともあり、大変ご迷惑をお掛けしましたことを心よりお詫び申し上げます。

また、ヘルパー申込において、土、日を中心に一年位先まで申込を受付していた事に対して組合員からヘルパーが利用できないとの意見を頂いたり、出役の一週間前までキャンセルOKでは、その後のヘルパーの調整も難しく、ヘルパーを有効活用出来ないのではとの意見も頂き、利用組合員の平等性の確保や通常利用への対応を目的として、総会にて規約の改正に関する議案を提出し、ヘルパー申込は利用予定日の三ヶ月前からとし、またキャンセルについても出役

二週間前までとすること等について承認を頂きました。

このように、今後とも皆様のご要望にお応えできるよう役員一同努力して参ります。

また、組合の運営を支えている補助事業についてですが、「酪農ヘルパー事業円滑化対策事業」は平成二五年度をもって終了することが決定しており、使用見込みのない基金については既に国・県・酪連に返還しております。更に、「傷病時の利用の円滑化」を目的に補助がされており、組合や傷病互助会の運営には欠かせない事業となつている「酪農経営安定化支援ヘルパー事業」は、平成二三年単年度事業となっており、毎年実施されるか否かは不明で今後の事業運営に対する不安材料となつております。

従いまして、これからも一層の自助努力と組合員皆様のヘルパー事業に対するご理解が必要となりますので、ご協力をお願い申し上げます。

最後に平成二四年が皆様にとりまして実り多き年でありますように、ご祈念申し上げます。新年のご挨拶にさせていただきます。

新年のご挨拶

～特別な年から新しい年を考える～

熊本県酪農専門農協協議会

会長 竹原 憲一



初春に、年頭のご挨拶を申し上げます。

酪農家の皆さまにおかれましては、本年も乳牛たちとともに、すこやかな年のはじめを迎えられたことと推察致します。

昨年は、東日本大震災、幾多の台風来襲、地球規模の気象変動により、各地区、各地域で大規模な災害にみまわれた年でした。また、福島原発の二次災害は、自然の驚異が人間社会をいかに無力化させるものかと驚愕した年でもありました。あらためて人と自然との関わり、営みのあり方、人と人との絆やつながりの深さに、想いを馳せる年ともなりました。

更には、東日本大震災から八か月後の十一月一日、環太平洋経済連携協定(TPP)交渉参加に向け、関係国との協議入りを行うとの表明が野田総理よりなされました。

その後のアジア太平洋経済協力会議(APEC)首脳会議を経て、TPPを軸に域内経済統合を進めようとする諸外国の勢いぶりには、強い懸念を持つに至っています。

一方、酪農・乳業界は、消費低迷、少子高齢化による構造的牛乳市場の縮小が避けられない中、一昨年の口蹄疫発生や猛暑での受胎の遅れ、震災による出荷自粛等もあり、生乳生産の回復遅れやセシウム問題による枝肉相場の暴落など、酪農・乳業をとりまく環境や基盤脆弱化を憂れうる事態も重なりました。

こうしたなかで、当協議会は年度当初より、TPP、震災と

原発、口蹄疫や家畜防疫、グローバル化と今後の組合運営等をテーマに、各種研修会や勉強会を開催し、酪農の活力を高める活動を行ってきました。会員各位には、毎回、多数のご協力とご参加をいただき、厚く御礼を申し上げます。

また、当協議会の最重要テーマである組織整備については、昨年七月に会員八組の代表者により県央地区組織整備推進協議会が設立され、新たな組織の確立に向けて、活発な議論を進めていただいているところです。

時に、昨年までの震災や原発、台風被害、家畜防疫等、そのすべてで危機管理と事業継続計画の樹立、当事者意識による対応策の実践等、係る事態の緊急性に直面するのみです。国論を二分するTPPの大議論、あらゆる反対運動さえ政府の協議参加表明を覆すことはありません。

今後のTPPについて、明確な方針や具体策は明示されていませんが、将来に重大な影響を及ぼし、大きな不安を抱えています。まずは、酪農家が元気で活発でありたい。熊本の地で飼料生産し、生乳生産を高めたい。

そのためには、個々の力を高め、組織として団結し、熊本酪農の地域力でグローバル化への危機管理、事業継続、その対応策などを具体化していかねばなりません。将来的には自然

エネルギーへの転換も想定しておかなければならないでしょう。

その前段階の準備として、酪農家個々がひとつの組織として活動できる県内一酪農協を早く確立しておきたいと思うのです。生産者個々が「これからどうするか」を自ら発案し、意見集約し、生産とその販売活動を行う。こうした熊本酪農の優位性を、他所とは違う、際だった独自性へと発揮・発展できる酪農生産者組織の確立が急がれると考えるからです。

いままですわしたち酪農業者が築いてきた、いや、酪農家の強固な連帯が育んできた「命・絆」の大切さは、いかなる事態や激変環境下にあっても、最大かつ最高に大切なものであることを、数多くの尊い犠牲や祈りのなかに、特別な年は教えてくれた気がします。個々の力の結集である組織基盤の強化を急ぎ、熊本県酪農の将来に亘る独自性確立への行動力を蓄え、熊本の地域力としていきましよう。

熊本県酪農専門農協協議会は酪農家のみなさんとともにある組織整備を通じ、熊本酪農の独自性確立へのお手伝いをしていきたい、そうありたいと思っています。

どうぞ、本年も宜しくお願致します。

最後になりましたが、本年がみなさんにとって、良き年でありますことを祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

熊本県乳用牛群検定組合

組合長 田山 千年



新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より本組合事業につきましてはご支援・ご協力を頂き心より感謝申し上げます。

昨年は、ギリシャの財政悪化に端を発した欧州の経済危機、七〇円台前半の超円高、タイの大洪水など激動の年でありました。そしてなんといつても三月一日、東日本大震災が発生しそれに伴う大津波、さらには原発事故が起こり多くの人々が生命や財産を失い、又、大切なふるさとを追われるなど大きな悲しみにくれ、一〇ヶ月が過ぎようとしている今もおその苦しみは続いております。どれほど科学技術が進歩しようと人間の力で大自然のエネルギーを止めることはできない；改めて認識し、牛という動物とともに自然の営みの中で生きている、生かされている酪農家の一人として自然に対する畏敬の念を禁じえない出来事でした。

また、この震災によるサブラ

イチェーンの崩壊により、食料さえも届かない、届けられない状況となり、特に牛乳、乳製品の重要性が再認識されました。

さて、酪農界を見渡してみますと全国の酪農家戸数は二万戸を割り、生産乳量もピーク時より約一〇〇万トンも減少してしまいました。特に都府県ではその減少幅が顕著であります。その中で熊本県は生産乳量で北海道、栃木に次いで全国で三位となっております。このことは県下酪農家の努力の賜物であり、賞賛に値するものです。

しかし、本年もT P Pの問題があり専門家と言われる先生方も真逆の話をされるなど先の見えない状況です。ただ、これまで幾度も生産調整、天災、飼料高、牛肉自由化等を乗り越えて変化に対応してきたからこそ皆さんは現在も酪農経営を継続しています。私たちは、乳牛が健康で乳量が多く乳質もよく、繁殖もよい牛たちがそろった牧場経営を目指しますが、このことは周りがどうなろうと変わらないことです。

こうした中、牛群検定組合で

は検定業務を通じて、乳量、乳成分、体細胞、濃厚飼料給与量、繁殖状況など一頭一頭の牛の能力や状態を把握することによって牧場全体の状況を客観的に捉えて、改良や飼養管理技術を高め生産性が向上するよう事業を行っております。検定には多くの有益な情報がありますが、反面、それらが活かされていない状況もあると思います。検定組合としては情報の提供の仕方、わかりやすい解説など更に活用しやすいものにしていく必要もあるのではないかと考えます。

検定農家戸数で五九%、検定頭数で六七%とここ数年横ばい状況であり、鳥取県の八〇%は別格としても九州でも宮崎、福岡、鹿児島に遅れをとっております。酪農家の皆さんには検定事業の有益性をぜひご理解頂き、ご活用下されば幸いです。そのために、県酪連をはじめ関係団体と連携しながら事業を進めてまいります。


年頭にあたり、本年がおだやかで、酪農家、組合員の皆様にとって幸多い年となりますよう祈念し、新年の挨拶といたします。

平成23年度


熊本県ホルスタイン種推奨種雄牛一覧

3,000円クラス

JP3H53655
エンドレス **ジアンビ**
父 ; ポリバー
母の父 ; ガーター
3期連続NTP第1位 長命連産効果は2位
乳器改良効果顕著で乳成分率は高いレベルで
オールプラスのアウトクロスブル
蹄の角度が小さい為、交配注意



JP5H53927
ジレットテイウエーブ
スパイラル ET
父 ; ミスター サム
母の父 ; ブリッツ
極めて高い体型改良力
能力体型のバランスに優れている
乳頭の配置 前後内付きの為、交配注意




1,000円クラス


JP3H54114
ホクレン ハードタツク
ホット **ジェッツ**
父 ; ホツトシヨツト
母の父 ; マーシヤル
高乳量・乳器の改良に優れ、付着形状とも好ましい
乳脂率が大きくマイナス
乳頭の長さ・内付きの為、交配注意



JP3H54030
オムラ スイテイエー
アシツクス ET
父 ; ゴールドウイン
母の父 ; ダーハム
体型・乳器の改良に優れている
体細胞スコアが低い
前乳頭の配置が内付きの為、交配注意
温順性が比較的低いので交配注意



JP4H54121
トップジーン
ゴールドオア ET
父 ; ゴールドウイン
母の父 ; オーマン
耐久性成分・肢蹄第1位 乳器・決定得点第2位
乳成分率はオールプラス
乳頭の配置は理想に近づく外付き



2,000円クラス

JP5H53812
WHG オーションニック
ジヨビアン ET
父 ; オーマン
母の父 ; ガーター
高乳量で抜群の乳脂量・率、長命連産効果が4位
後乳頭配置は国産推奨牛中最も理想に近い外付き
座骨が高い為、交配注意



JP4H53778
サニーリツジ **インタラクト**
父 ; マーフイヤー
母の父 ; モーテイエー
高乳量で高い乳代効果として高い乳用強健性
産子難産率がやや高い(子出しがやや大きい)
尻角が座骨高の為 交配注意



輸入精液 (価格はすべて4,000円クラス)

1H8778
シヤールレスデール
スーパード
ステイシヨソ ET
母の父 ; ポリバー
父 ; オーマン
高乳量で高い体型改良力、生産寿命が
長く安産形度高受胎率
尻角が高い 後肢側望(曲飛) 注意




乳器改良全米No1
高能力牛への交配が良好
座骨が高く、乳頭配置が内付き注意

JP3H53999
ジレットテイウエーブ
スパークリンググ ET
父 ; ゴールドウイン
母の父 ; ブリッツ
乳器の改良No1 高乳量+2,000kg 越え
乳成分率全て大きくマイナスの為、交配注意



JP4H53995
WHG ゴズポート
スリート ET
父 ; ゴールドウイン
母の父 ; モーテイエー
乳成分率オールプラス能力と体型のバランスが良好
乳頭の配置が内付きの為、交配注意



JP5H54023
トツプガン
オプクレイタス ET
父 ; オーマン
母の父 ; ハーシエール
蹄の角度が大きく前乳房の付着に優れる
乳頭の配置は理想に近づく外付き
乳房懸垂が弱い



29H13363
カツバートツブ
ドーベルマン ET
父 ; シヨトル
母の父 ; グランガー
アウトクロスで安産形 体型改良に優れる
座骨高と乳頭の配置内付き注意



近親交配を避ける為、登録証を確認して授精をお願いします。

選定：らくのうマザーズ・熊本県乳牛改良同志会・熊本県酪農畜産年部協議会・熊本県乳用牛群検定組合